

多層生体情報から読み解くアバター利用の生体影響

概要

本研究では、アバターを通じたインタラクションが操作者や対面者に与える影響について、人の視線や動作だけでなく脳活動といった生体信号、さらには体内のホルモンや代謝物まで多層的に調査する取り組みについて紹介します。アバターの影響を網羅的に理解することで、健康的に利用するための指針策定やインターフェース開発を目指します。

特徴

- アバター利用は人々に良い影響だけでなく、依存症や腰痛など悪影響をもたらす可能性があります。そういった好悪影響を明らかにし、健康的なアバター利用を目指します。
- ロボティクス、脳科学、医学に加え、生命科学の研究者と共に、アバター利用が人に与える影響を行動や脳活動といったマクロなレベルから、遺伝子や代謝物といったミクロなレベルまで網羅的に調査します。
- この調査により、アバター利用が私達にもたらしうる影響を網羅的に理解し、予測することで、健康的な利用に向けた指針の策定と、健康的に利用するためのシステム開発に取り組みます。

今後の展開

- ロボットだけでなくゲームのキャラクターも含めたアバター操作、それとZoom対話との比較についても調査を進める予定です。その結果を踏まえて、アバターを健康的に利用するためのインターフェース設計を行います。

テーマ「Society5.0への貢献～サイバーとフィジカルの融合に向けて～」との関連

- 日常的にサイバー世界を介す新たな社会は、私達へ良い影響だけでなく、依存症など悪影響も与える可能性があります。本研究を通して、良い影響を促進、悪い影響を予防・低減する技術を確立し、健康的な未来社会を目指します。

